

小學初教

稻垣千穎校閱
塚原苔園編

四

K1101
2A9
4

稻垣千穎校閱
塚原苔園編

卷四

小學初教

版權免許 博文堂藏版

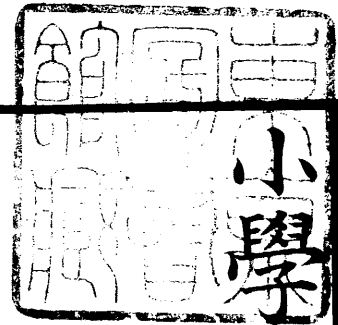


小學初教卷之四

目次

- 孝悌
- 忠節
- 事師
- 友誼
- 禮儀

小學初教 卷四 目次 博文堂藏版



小學初教卷之四

稻垣千穎校閱
塚原苔園編

第一章 孝悌

○人は常小愛敬を忘れずして。孝悌の道をつとめ行ふ。一
○孝も五倫に第一ふして。人の行

の本あり

○人の行は。孝より大なるはあり。といへり

○父母ふ孝あらざる時。たとひ他の善行ありとも。見るふたらば

○孝行の要い。少くも父母の意ふ

逆はどして。事ふるふあり

○父母の耳目を樂ましめ。また寢食を安んずる

○父母愛すまむ。喜で忘まは。父母惡めば。おそれて怨みは。父母過あまは。いさめて逆を。と云ふ

り

○父母世ふいまほとき能く孝を盡さざんば死後ふ至て悔ゆとも追ふ慮らるべ

○祖父祖母は父母の親ふして伯父叔母ハ父母の兄弟姉妹ふまば父母と同く敬ひ事ふべし孝ある者は家を富し不孝ある

者を家を破る

○父祖の遺法を捨て又其の遺財を失ふを大なる不孝あり

○人孝悌の道をかけば一家をさまらず

○藝能身ふ備はも孝道欠くることあれば人の行立たば

○人學で身を修むるは。人たる道を行ひて。身を立つる爲なり

○身を修むるは。學問の本にして。藝を備ふるを。學問の末なり

○學で末を勉め。本を忘るまば。道をおろそかにし。身を立つること能はず

○身を立て道を行ひて。父母を顯すは。孝の終なり。といへり

○兄弟たる者は。弟妹よ。其の言ふ所行ふと。おろそかに。教へ導くべし

○弟妹たる者も。兄弟の教に順ひて。何事いさかふ。慮からず

○兄弟姉妹ハ。心を一ふし。力をあ

をせて。父母不孝養を法くすべ

一

○兄弟姉妹は。互ふあひたすけ相親きて。決して疎よまべからば

○兄弟姉妹の中あゝきは。愛敬の到らざるより起る

○兄弟姉妹の間。不和なれば。父母

をして憂へいたまゝむ

○兄弟姉妹あらそひ逆ふは。父母不孝なる不孝あり

第二章 忠節

○君臣は。人の大義あり

○大義立たざれば。國家治らば

○君臣の間は。義を重くとす

○義とは宜しき道を従ひて。事を行ふをいふ

○我が國は。

天皇君臨ましくて。萬の事を統べ治めたまふ

○天皇陛下を無上乃位よましくて。至て高く至て尊し

○天神を敬ひ。

天皇を尊み奉りて。忠を盡さば

○忠を盡すふは。我が身をわする

身

○我が身を己まはとは。君のため小身を擲つことなり

○君小事へて身をいたすは。臣の義あり

○身を致すとは。君の爲ふ命を棄つる哉いふ

○忠臣は。二君小事へむ。貞女も。兩夫ふまゝとえむ。と以るなり

○人は。常に銳氣を養ひて。操を固

くまづべし

○銳氣を養ふとは。事ふ屈し撓まざる哉いふ

○操を固くすとは。己が守るべき所をかたく執りて。動のざらふをいふ

○臣民たる者い。常ふ政府の法令

をまえりて。國家の富強を務め
ざばあるべからば

○政府をそ志り。法令ふそむくは。
不忠不敬の甚しきこと知る
べし

第三章 事師

○教師の言ふところ行ふ所に皆

我が模範なり

○教師に教ふ從ひて。勉め學ぶも
此は。富貴の人とある

○教師の教ふ背き怠る者。貧賤
の人となる

○富貴人の好むところ。貧賤は
人此惡む所あり

○教師ハ從ヒて學問ヲするは身ヲ修め智ヲを開くためなり

○教師ハ從マズんバ身ヲを修め智ヲを開くことハ能マズ

○學成り身立つハ即教師の恩ヲ忘れバ決シて之ヲを忘るべクらハズ

第四章 友誼

○朋友ハ交ハは智識ヲをみガき見聞ヲを廣むるハあり

○智識ヲを磨き見聞ヲを廣むるハは互ニ小學業ヲを講習スべシ

○人ノ朋友ヲあキときは學問ヲするハえ智識見聞ヲせマス

○朋友相トもハ小學業ヲを講習スる

は。幸福を輔けおほ基なり

○朋友。えいし學業を怠り。又ハ行狀
惡しき事あるときい。懇よ忠告
を盡し

○人よ忠告を爲る者は常よ。おの
きを正しくせずばある處より
は

○己正しからざるは。忠告を盡すも。
人之を信ぜず

○己を正しくするには。常よ。言を
謹し。行を篤くせし

○言行正しき時を。恭敬の心厚く
かりて。交まをく深し

○行正しからば。又詐を言ふこと

あまきい。交たちまち絶ゆ

○朋友の交い。貴賤上下小よつまで。

親疎乃別あることなり

○己の富貴を恃て。驕り高ぶる

もれば。人小疎まる

○己賤しと雖。身修り行正しきと

きは。人よ親まる

○人富し。人貴しとて。親む。富き小

あらば。人貧しく。人賤しとて。疎

む。富からば

○富と貴きとをみて進し。貧しき

と賤しきとを見て退くは。小人

なり。といつる

○利と勢とを見て交る。小人乃

常あり

○朋友。心友。面友の二あり。心友とは。志を同く志て交るをいひ。面友とは。外面に之の交れ去ふ

○心友と面友とは。交際上ふ於て。異あることなき。情誼の親疎

あり

○艱難のとき。臨で。信實を盡して。たがひふ扶け救ふ。朋友の義務あり

○世。歡樂をともふ。是は。人。此。志。易きこと。ふて。艱難を救ふ。は。人の。志。難きこと。あり

○歡樂の時。相共ふして。艱難れど
き。相救むざるは。朋友乃道よ背
ずり

第五章 禮儀

○食事の時は。坐席を正しく志て。
膳ふ就く。魚一
○食事乃とき。父母尊長ふ先だち

て。膳ふ向ふは。無禮あり
○食事の時も。静ふして。食物なと
の。善一悪一を言ふ。魚からげ
○食事の時。祖ぎ。又たて膝おどす
るは。甚しき無作法なり
○食物を食ひ散らし。又湯茶など
をこぼす。魚からげ

○食事中。あじたいしく。便所へ行

くなどの。不行儀あるべからば

○食物をつまみ取り。又立ちあが

ら。飲み食ひまること勿き

○衣服袴い。禮儀を整ふる具なれ

む。正しく着すべし

○衣類ハ。汚し。また破らざるやう。

心を用ゐる處し

○衣類い。垢つかざるをよしとす

きい。必美麗の品を好み。又其の

美惡を言ふ處からば

○美麗の衣服を着て。身を飾るこ

とを好むい。女子の常なれい。殊

ふ之を戒むべし

山陰抄 卷之四 十一

○女子いたとひ身ふはぐれを着るえ。心を錦ふまべー

○女子ハ容より心の勝れたるを善しとまといつり

○障子襖などのあけたてを静ふまする禮なりかあらば粗忽のことある處うらず。女子は殊よ

之を慎むべー

○何の品も限らば使ひ用ゐたる後はまた元の處にをさめ置く處ー

○書籍器械其他何の品もかぎらず。胯ぎ越ゆるは無禮あり。女子は尚更心を用ゐるべー

○家の内外を掃除せるは禮なり。常々塵芥の積らざるやう。清潔ふまべし。

○人と應對するときは。禮儀を正しくす。

○女子は。殊に禮儀を慎みて。起ち居振舞を。志とやかふまべし。

○人々談話中。己が談話を仕懸くるは。無禮あり。

○衆くの人と同坐するときは。己が心易き者とさし。やま。又高話し。高笑をするは。無禮なり。

○客來のとき。他ふをかきこと。あまとい。陰にて笑ひさし。まか

どまゐるは無禮あり

○人々内話をするととき。窺き見。又立ち聞まゐるは。不敬なり。

○人の家ふいたりて。所々を見廻し。又みだり小居間に入るは無禮あり

○人々家よゆきて。妄小長談をす

るは。禮ふあらば。時ふよりては。人小倦まゐるべし

○人の招きを受け。又人と他行を約したるとき。其の時刻小違ふは。無禮なり

○人と約束はるときは。初小能く考へ慎むべし

○己の意不任せざることは、輕々
志く約束を處からば

○人は、かりそめふえ、不敬不遜乃
ことある處からば

○不敬不遜も、無禮の甚しきえの
よて、終身の禍となる

○人より争を仕懸け、又不遜不敬

のふるまひありとえ、己は、禮讓
を以て、之を處すべし

○瑣少の事を憤りて、人ふ無禮を
することあれば、後日、悔ゆと
も、追ふ處からば

○人と争ひ、又不和となるは、みか
禮讓のこたは、ふよは、常々之

を慎むる

○禮あるを見て。人の貴きを知り。禮なきを見て。人乃賤しきを忘る。と以り

○禮儀正しき人も。自然と他の模範となりて。人ふ慕える

○人として禮儀なき時は。禽獸ふ

ひとし。人の禽獸ふ異なるゑの。は。禮儀を行ひ。人たる道を盡すを以てなり

姜潭書



小學初教卷之四終

小學科書 卷之四 十才堂出版

明治十七年二月廿九日版權免許

定價金拾錢

校閱人

埼玉縣士族

稻垣千穎

編者

静岡縣士族

塚原苔園

東京四谷區四谷坂町百六番地

出版人

東京府平民

原田庄左衛門

全本鄉區本郷元町壹丁目五番地



小學初教

稻垣千穎校閱
塚原苔園編
五

圖書
K110.1
249
研